



「組織におけるナンバー 2」

歯科医師石櫻会
会長 山田 康平

いくつかの団体、組織の会長を経験している。今回もそうであるがどうも居心地が悪いのです。私は会長の器ではないのであろう。会長ナンバー 1 (No. 1) とそれを支えるナンバー 2 (No. 2) について考えたことがあったので書いてみたい。

組織が充実し、大きくなってゆくには No. 2 の存在とその役割が重要である。学術、会計、庶務、広報など部門の長としての No. 2、またトップに策を授け、知恵、情報を授ける参謀としての No. 2、組織の中を運用してゆくのにこまごまとしたことをトップと一体となってゆく補佐役としての No. 2、この三つの No. 2 がうまく運用し、活躍出来る時組織は大きくなってゆくのであろう。No. 2 は自分の功績を一切言わない、功を争っては足の引っ張り合いとなり No. 2 にはならないのである。その代わりあの人の言うことは聞かざるをえない、常に中立の立場にあり裁定者としての登場が出来る。そういう状態を保つことが No. 2 には必要である。一方、No. 1 はビジョン、理想を持ちきらびやかに方向を示さなければならない。理念だけでは No. 1 になり得ない。トップの欠点を補い自分はその実現の一部であったという匿名の情熱のもてる人物が真の No. 2 の資質であると思う。No. 1 も No. 2 もともに能力が必要であるがそれなりの能力のある人は皆 No. 1 を目指す。No. 1 はその時代時代にでるが No. 2 の得難い才能、その出現は少ない。一昔前、そんなことを考えたりしていた。

我々歯科医師石櫻会には、得難い、優秀な補佐役、参謀役の No. 2、きらびやかな No. 1 候補も数多くおられ、将来も安泰であると確信する。

やはり私は No. 1 の器ではないか…。

前会長横澤昭平先生は歯科医師石櫻会の会員名簿の整備作成をされました。今年度はこの会の歩み、歴史をまとめ、残したい。その道筋をつくり次期執行部に実務を託したいと考えている。会員各位のご協力をお願いいたします。

掲載内容

- ・ 巻頭言
- ・ 平成 24 年度総会報告
- ・ 平成 24 年度講演会報告
講演 1 (新 41 回生)
大久保 卓也 先生
講演 2 (岩手医大歯学部准教授)
成石 浩司 先生
- ・ 石櫻トピックス
- ・ 役員名簿
- ・ 幹事会記録
- ・ 事務局からのお知らせ
- ・ 編集後記



平成24年度総会 および被災会員を励ます会報告



平成24年6月16日(土) ホテル・メトロポリタン盛岡本館において、大久保卓也先生、成石浩司先生の講演会後に平成24年度歯科医師石櫻会の総会が29名の会員出席のもと開催された。田中健一副会長の開会の辞、山田康平会長挨拶の後、上原豊幹事の司会で池田健会員が議長を務め議事が進行した。中野廣一幹事長より平成23年度の会務報告、赤坂俊彦会計幹事より会計報告がなされ、村上修監事より会務・会計内容が適切である旨の監査報告あった。平成24年度事業計画等について審議され、原案通り承認された。また、山田会長より来年度35周年の記念する事業を行うための特別委員会の結成の要請があり承認された。小豆嶋正典副会長の閉会の辞で閉会した。総会後の懇親会は被災会員を励ます会を併催し、山田町の千代川泰久先生、宮古市の伊藤篤先生、道又元先生方から被災時の状況や近況報告をいただき、盛会裏の内に次年の再開を期して中締めとなった。



東日本大震災犠牲者への黙祷と献杯



千代川泰久先生



伊藤篤先生



道又元先生



講演 1

「義歯長期経過に関する考察」

大久保卓也 先生 (新41回生)

岩手医大歯学部補綴・インプラント学講座
(現在盛岡市開業)



8020運動の展開により高齢者の無歯顎者率は30年前と比べ大幅に減少しているが、急激な高齢者人口の増加により無歯顎者数は増加しているのが現状である。高齢者は長期間義歯を使用していることが多く、その顎堤状態は様々な変化を呈している。多くの義歯使用者は顎堤変化に伴う義歯使用感のわずかな低下では歯科医院を受診せずに試行錯誤的に対応されている。

顎堤の変化に対して歯科医師が行う方法にはリラインがある。一般的にはチェアサイドで行う直接法リラインを選択される。この方法は簡便ではあるが粘膜刺激性があり唾液の介在によりメーカーの標榜する接着力は望めず、徐々に既存の義歯床とリラインレジンとの境界から剥離、汚染されることもしばしばである。対して、間接法リラインでは接着阻害因子のない環境でリライン操作が可能である。

従来、義歯の不適合を訴える患者には広範な義歯性口内炎など粘膜性状の改善を図る必要があり、粘膜調整の後にリラインや新義歯製作に進むことになる。近年、動的機能リライン材と呼ばれる粘膜調整材から自発的硬化反応によりリライン材に変化する材料が市販されている。本材料は印象面が徐々に硬化し、患者の日常生活など機能時の辺縁・粘膜形態がそのまま常温重合レジン程度の硬さまで硬化が進む。欠点として研磨が不可能であり、表面性状の荒れがあるが表面滑沢材を繰り返し塗布することにより、研磨効果・表面保護・耐磨耗性の向上などの効果が得られる。また、摂食嚥下障害を有する患者に対して使用中の義歯を用いた

舌接触補助床の製作に有効である。

義歯を長期間適切に使用するには義歯洗浄が不可欠である。義歯洗浄剤には様々な種類があるが過酸化水素系は過酸化水素による殺菌と漂白、次亜塩素酸系は漂白作用・殺菌作用が高いが金属腐食やレジンの劣化を生じさせる可能性がある。酵素系は酵素によるタンパク質分解作用により洗浄するものであり、他の洗浄剤に比べてその洗浄効果は低い。そのため動的機能リライン材や軟質リライン義歯の洗浄に適応される。

義歯洗浄については二酸化チタンによる光触媒技術の応用が期待されている。この二酸化チタンは、太陽光や蛍光灯の紫外線が当たることにより活性酸素などを発生し強い酸化分解作用を発揮する優れた機能を有し、二酸化チタン配合義歯床用レジンが開発が進められ、抗菌・脱臭・セルフクリーニングが期待されている。この二酸化チタンによる光触媒技術は義歯洗浄剤にも応用され、紫外線を照射することにより洗浄効果が発揮される製品もある。

要介護高齢者の増加により誤嚥性肺炎と口腔内衛生状態の関連が注目されているが、口腔ケアにより発熱・肺炎の発症や死亡者数の減少させることが明らかになっている。口腔ケア・義歯ケアが誤嚥性肺炎の予防に貢献し、患者がなじんでいる義歯を適切かつ清潔に継続使用していただくことが患者のQOLの向上につながるものと考えられる。心からお詫び申し上げます。(講演者 自抄)



講演 2

「沈黙の疾患歯周病を考える！」

成石浩司 先生

岩手医大歯学部 う蝕抑制学分野 准教授

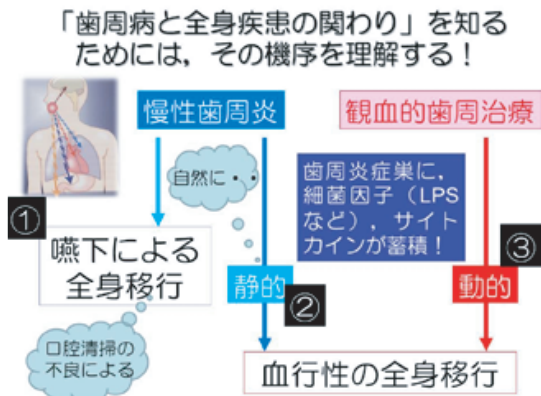
慢性歯周炎(歯周病)は、口腔内の常在菌の作用によって発症する感染症であり、その病態は免疫反応に依存します。したがって、細菌・免疫学的検査によって治療の成否が診査されるのが好ましいと思われませんが、現在の医療保険収載の歯周検査は、歯の動揺度、歯周ポケット深さ、あるいは歯槽骨吸収度などの「組織破壊度」を指標に実施されています。我々、歯周病研究者は、このような情勢に危惧を覚えており、いかにして歯周病検査に細菌・免疫学的概念を盛り込むかについて議論してきました。今回、

従来の歯周精密検査に並行して細菌・免疫学的検査(歯周ポケット内細菌DNA検査および血清IgG抗体価検査)を行った重度歯周病患者症例を通じて、我々の医療理念を紹介させていただきました。

外科的な歯周治療は、重度歯周病患者の予後安定のために必要な治療技術であると考えられます。とりわけ、臨床の現場では、歯周基本治療後に残存した深い歯周ポケットに対する外科療法として、歯肉剥離搔爬術(フラップ手術)が頻用されています。この療法は歯周ポケットの健全化に有用である反面、治癒後、長い上皮性付着が形成されるため、再発しやすいとされています。したがって、最近では上皮性付着ではなく強固な結合組織性付着を獲得しやすい術式が励行されるようになってきました(歯周組織再生療法)。さらに、歯周組織の長期安定化を図るために遊離歯肉移植や結合組織移植を行うことで「付着歯肉」幅を獲得することも重要な外科処置の目的と考えられます。今回、このような歯周外科処置を行う意義について解説させていただきました。

歯周病は疼痛なく進行する「沈黙の疾患 silent disease」であるため、患者自身、気付かないまま悪化することが多いという特徴を有します。昨今、歯周病による慢性感染が全身疾患を悪化することが知られるようになりました。とりわけ糖尿病と歯周病の双方向の連関は、研究・臨床の両面からのアプローチによって、ますます理解が深まっています。

平成19年には、我が国の今後10年間にわたる健康指針として、新健康フロンティア戦略が発表され、その中に「歯の健康力」が組み込まれました。これまで、歯の延命を図ることが主目的であった歯科治療が、患者の全身の健康を守ることに貢献し得ることを提唱することが、今後の歯科医療界の趨勢になることを希望します。(講演者 自抄)



平成24年度 歯科医師石櫻会 総会・講演会・懇親会(被災会員を励ます会) 参加者のご紹介 (敬称略)



後列左から：中野廣一、西郷史郎、亀田幸宏、関根 元、上原 豊、熊谷哲也、徳富 亘、田中崇一、波紫修一、田中 俊
 中列左から：村上修、岡田伸男、関 克典、柳澤 泰、小豆嶋正典、田中健一、八重樫良昌、池田健、志和宏俊、赤坂俊彦
 前列左から：道又 元、伊藤 篤、千代川泰久、村井伸吾校長 成石浩司先生、山田康平 横澤昭平 大久保卓也 伊保内利一、米内正

石櫻トピックス

皆様ご存じの盛岡八幡宮。宮司の藤原隆麻呂氏は岩手高校新24回生。宮司は八幡宮の後援会崇敬会、成年部葉桜会とともに八幡宮や八幡町界隈を華やかにしようと日々考えています。拝殿でのロンドンフィルコンサート、ジャズの夕べなどを催し、いろんな方に八幡宮を知っていただくようにしています。初詣くらいしか行かない所ですが一度散歩がてら行ってみてください。心休まるパワースポットがあり、懐かしい夏のカキ氷、ナポリタン、ベル以上?のハンバーグがある喫茶『茶吹』も最高です。愉快的な欄干や巫女さん達も待っています。是非、是非。(赤坂俊彦 記)



役員名簿

(任期：平成23年4月1日-平成25年3月31日)

- 会 長 山田康平
- 副会長 田中健一, 小山田榮二, 小豆嶋正典
- 幹事長 中野廣一
- 幹 事 柳澤 泰, 上原 豊
- 学術 赤坂俊彦, 西郷史郎
- 会計 熊谷哲也, 大久保卓也, 内田良夫
- 庶務 亀田幸宏, 波紫修一
- 名簿 関 克典, 久保田文彦
- 広報 道又 元, 村田昌明, 佐々木正博
- 地区 岡田伸男 (学術と兼務)
- 学内
- 顧 問 岡田宗二, 横澤昭平
- 監 事 桂 啓文, 村上 修 (敬称略)

幹事会記録 (抜粋)

平成24年度第1回幹事会

日時：平成24年6月8日(木) [於：「花梨」]
出席者：山田康平会長、田中健一、小山田榮二副会長、中野廣一幹事長、赤坂俊彦、柳澤泰、関克典、亀田幸宏、熊谷哲也、波紫修一、西郷史郎、大久保卓也の各幹事
村上修監事(敬称略)

1) 報告事項

(1) 中野幹事長より昨年度の事業報告：平成24年2月16日幹事会▼6月16日総会、講演会▼4月：総会、講演会の案内、会費自動振込み用紙、会報第4号の発送、5月：2回目の案内発送。▼平成23年7月8日：桂啓文先生(新14回生)御母堂様ご逝去：会からお香典。12月26日：関克典先生(新34回生)ご尊父様御逝去：会からお香典。

(2) 赤坂会計担当幹事より平成23年度の会計報告：

<収入>収入合計 487,135円(内訳：当日会費7,000×27=189,000、当日会費学生3,000×1、当日年会費5,000×16=80,000、振替入金5,000×28=140,000、振込入金5,000×13=65,000、雑収入10,000、決算利息135)

<支出>支出合計392,048円(内訳：総会費240,182、講師謝礼70,000、車代10,000、資料作成費等34,837、会印作製費12,600、弔電3,507、香典(3件)15,000、自動振替手数料5,922)

<収支> 487,135円 - 392,048円 = 95,087円

2) 審議事項

(1) 会場について

・H.メトロポリタン本館にて総会、講演会、懇親会(被災会員を励ます会併催)を行う。

(2) 講演会について

・成石浩司先生(世話役：柳澤泰先生)と大久保卓也先生。

(3) 次年度の35周年記念講演会の講師について

・近藤尚知先生(岩手医大補綴・インプラント科教授)(1時間30分の講演)

(4) 執行部役割分担の一部変更について

・大久保卓也学内幹事の今秋の開業に伴い、新学内幹事として岡田伸男会員が推挙された。大久保幹事は新たに庶務担当幹事を委嘱された。(文責：熊谷哲也)

平成24年度第2回幹事会

日時：平成25年2月27日(水) [於：「花梨」]
出席者：山田康平会長、田中健一、小山田榮二副会長、中野廣一幹事長、赤坂俊彦、柳澤泰、関克典、熊谷哲也、西郷史郎、大久保卓也の各幹事、村上修監事(敬称略)

1) 報告事項

(1) 中野幹事長より昨年度の事業報告：6月16日総会、講演会、懇親会(被災会員を励ます会併催)(29名参加)▼平成25年度開催予定の本会35周年記念祝賀会と記念誌の発行に向けて、記念祝賀会準備会(田中健一委員長)と記念誌準備会(小山田榮二委員長)を立ち上げた▼平成25年度の35周年記念講演会講師は、近藤尚知先生(岩手医大補綴インプラント科教授)▼平成24年8月31日：田口淳先生(新30回生)御尊父様ご逝去・吉島一郎先生(旧13回生)ご逝去：会から弔電。9月2日：桂啓文先生(新14回生)病氣見舞金。10月16日：小山田榮二先生(新20回生)御尊父様ご逝去：会からお香典。11月18日：村田昌明先生(新24回生)御尊父様ご逝去：会からお香典。

(2) 赤坂会計担当幹事より平成24年度の会計中間報告：

<収入>収入合計445,109円(内訳：当日会費7,000×25=175,000、当日年会費5,000×13=65,000、振替入金5,000×30=150,000、振込入金5,000×9=45,000、雑収入10,000、利息109)

<支出>支出合計391,782円(内訳：総会費267,180、講師謝礼70,000、車代10,000、総会資料作成費・送料14,545、慶弔費23,442、自動振替手数料6,615)

<収支> 445,109円 - 391,782円 = 53,327円

(3) 熊谷幹事より、充実した内容の会員名簿を記念誌に掲載するため亀田、波紫名簿担当幹事が検討している旨の報告があった。

(4) 田中記念祝賀会準備会委員長、村上副委員長、小山田記念誌準備会委員長、中野副委員長から進捗状況の報告があった。

2) 審議事項

(1) 会則改正の関する件

・岩手中学・高校を中途退学した者も会員にするため会則改正を行うこととなり、総会に諮ることとなった。

(2) 平成25年度総会・講演会・35周年記念祝賀会に関する件

・6月29日(土)夜5時から、メトロポリタン盛岡本館にて開催。

(3) 平成26年度講演会講師に関する件

・柳澤泰先生(新31回生)と八重柏隆先生が野田守先生(岩手医大教授)

(文責：大久保卓也)

事務局からのお知らせ

■ 会計からのお願い

年会費のご納入が未だでございましたら、下記口座へ5,000円のお振込みをお願いいたします。銀行口座からの自動振替制度のご利用が便利です。事務業務も大変簡素化され助かりますので、お手続きを宜しくお願いいたします。

■ 「銀行振込み口座」

東北銀行 大通支店 (支店コード103)

(普通) 3162801 歯科医師石桜会 会計 赤坂俊彦

■ 「口座振替依頼書」のお手続きの問合せ・送付先

〒020-0016 盛岡市那須川町29-2 赤坂病院歯科

歯科医師石桜会 会計 赤坂俊彦 宛

TEL : 019-624-1225 FAX : 019-623-1825

■ みなさまの声をお寄せ下さい

本会についてのご意見・ご要望、会員名簿のご訂正や名簿に掲載されていない岩手中高卒の歯科医師情報、会員のお悔やみ情報などがありましたら事務局までお知らせ下さい。

歯科医師石桜会事務局

〒020-0837 盛岡市津志田町2-1-70

くまがい歯科クリニック内

TEL / FAX : 019-632-1188

E-mail: tetsu-tetsu@wish.ocn.ne.jp

編集後記

今年の桜の開花予測は平年より約1週間早く、この会報がお手元に届く頃には「石割桜」は開花しているのではないのでしょうか。◆前号の石桜トピックスで村上監事が、高橋克彦氏(新19回生)の言葉、我ら岩手高校の卒業生は「大地にしっかりと根を張り、柔らかな心ながら頑固な岩をも割る思いを持ち、自身の咲かせた美しい花を他人の喜びと変える思いを秘めている」を引用しておられました。◆それを実証するかのようには母校の囲碁部は2012年も全国制覇、将棋部は県大会個人戦1~4位独占、団体戦ではV3を達成、テニス部は県大会圧勝のV3と柔剛両面での母校の活躍が止まりません。◆昭和52に産声をあげた歯科医師石桜会は35年目を迎えます。人に喩えれば「成年」から「盛年」への移行期ともいえる節目の時期です。「石桜精神」をそれぞれの胸に秘め、さらなる成熟と発展を期しましょう。(中野廣一記)